

# 福島県花き振興計画



平成31年3月

福島県

## 目次

### I はじめに

- 1 計画の趣旨 . . . 1
- 2 計画の期間 . . . 1

### II 花きの現状と課題

- 1 花きの生産について . . . 2
- 2 花きの流通について . . . 6
- 3 花きの消費について . . . 8

### III 振興方針

- 1 基本方針 . . . 10
- 2 品目別の振興方策
  - (1) きく . . . 14
  - (2) 宿根かすみそう . . . 15
  - (3) りんどう . . . 16
  - (4) トルコギキョウ . . . 17
  - (5) 枝物類 . . . 18
  - (6) 鉢物類 . . . 19
  - (7) 地域振興品目 . . . 20
- 3 県オリジナル育成品種の振興方策 . . . 22

# I はじめに

## 1 計画の趣旨

本県では、阿武隈高地と奥羽山脈により分けられる中通り・会津・浜通りの平坦地から高冷地まで標高差のある多様な気候条件を生かして、切り花類や枝物類、鉢物類などで、高品質な花き栽培が行われてきました。

しかし、平成 23 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震（以下「東日本大震災」という。）と、東京電力福島第一原子力発電所事故による災害（以下「原子力災害」という。）が発生し、本県花き生産においても、作付面積及び農家戸数の減少や、一時的ではあるものの風評により単価が大きく下落するなど、甚大な影響を受けました。震災後、8 年が経過した現在でも、作付面積や農家戸数などは震災前の状況には戻っていない状況です。

一方で、避難指示が解除された区域等では徐々に営農再開の動きが出てきており、特に花き栽培においては、風評の影響を受けにくい品目として、農業者の関心が高まってきています。このため、本県農業の復興を成し遂げるためには、農業産出額の 4 割を占める園芸品目の復興・再生を花きの生産振興を含めてさらに進める必要があります。

また、国は、花き産業及び花き文化の振興を図るべく、平成 26 年 12 月に「花きの振興に関する法律」を施行し、平成 27 年 4 月には「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針（以下「国基本方針」という。）」を策定しました。

これらの状況をふまえ、県政運営の基本方針である福島県総合計画「ふくしま新生プラン（平成 24 年 12 月）」の農林水産分野計画「ふくしま農林水産業新生プラン（平成 25 年 3 月）」第 4 章第 3 節に定める“県産農産物の生産振興”及び「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興プロジェクト（以下「新未来園芸プロジェクト」という。）」との整合を図るとともに、現状を踏まえ「福島県花き振興計画（以下「振興計画」という。）」を策定しました。

## 2 計画の期間

振興計画の実施期間は、平成 31 年度（2019 年度）から、国基本方針の目標年度と対応した平成 37 年度（2025 年度）までの 7 年間とします。

## Ⅱ 花きの現状と課題

### 1 花き生産について

#### (1) 全国の状況

##### ア 花き生産額及び作付面積の推移について

全国の花き生産額は平成10年をピークに平成20年まで大きく減少しましたが、近年は横ばいで推移しています。作付面積は平成7年をピークに近年は減少傾向にあります。

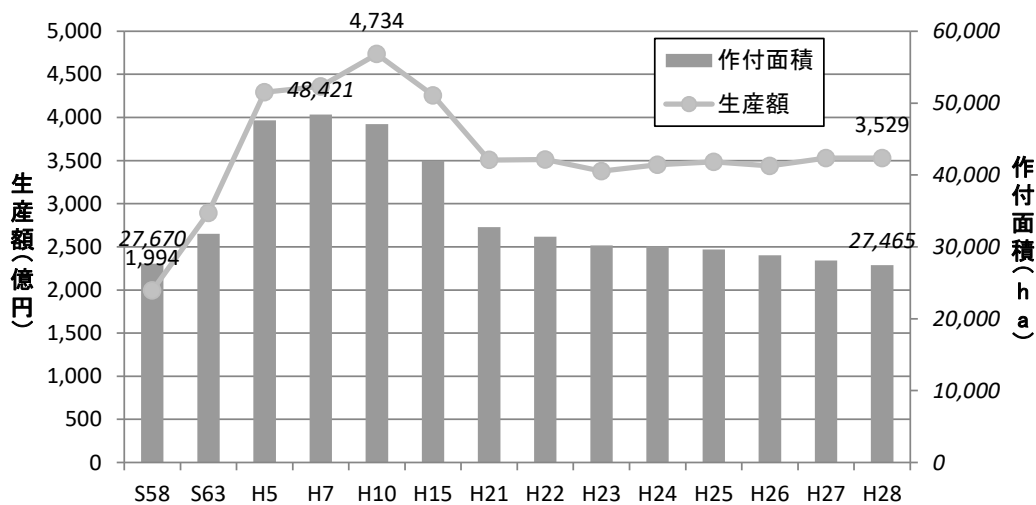


図1 全国の花き生産額及び作付面積の推移

出典：農林水産省「生産農業所得統計」、  
「花き生産出荷統計」、「花木等生産状況調査」

##### イ 全国の品目別作付面積及び出荷量について

平成29年の作付面積は、切り花類が14,460ha（対前年産比99%）、鉢物類が1,643ha（同98%）、花壇用苗もの類が1,401ha（同97%）となっています。

また、出荷量は、切り花類が37億400万本（同98%）、鉢物類が2億2,120万鉢（同98%）、花壇用苗もの類が6億960万本（同94%）となっています。

切り花類の主要品目は、きく、ゆり、トルコギキョウ、りんどう、ばら、カーネーション、枝物類となっています。

表 1 全国の品目別作付面積及び出荷量（平成 29 年）

	作付面積(ha)	出荷量(万本)	対前年産比		
			作付面積(%)	出荷量(%)	
切り花類	きく	4,758	150,400	99	99
	ゆり	741	13,760	99	99
	トルコギキョウ	434	10,100	99	100
	りんどう	432	8,690	100	98
	ばら	336	24,820	97	97
	カーネーション	295	24,020	98	96
	枝物類	3,629	20,640	100	100
	その他	3,835	117,970	99	96
	切り花類 計	14,460	370,400	99	98
	鉢物類	1,643	22,120	98	98
花壇用苗もの類	1,401	60,960	97	94	

※鉢物類は万鉢

出典：農林水産省「花き生産出荷統計」

## (2) 本県の状況

### ア 花き生産額及び作付面積の推移について

本県では、広大な県土と浜通りから会津地方までの豊かな自然環境及び京浜・仙台等の大消費地を近くに控えた立地条件を生かしながら、切り花類、枝物類、鉢物類等が生産されています。

生産額と作付面積は、平成 23 年に東日本大震災と原子力災害により大きく落ち込み、その後も高齢化等の影響で減少傾向にあります。

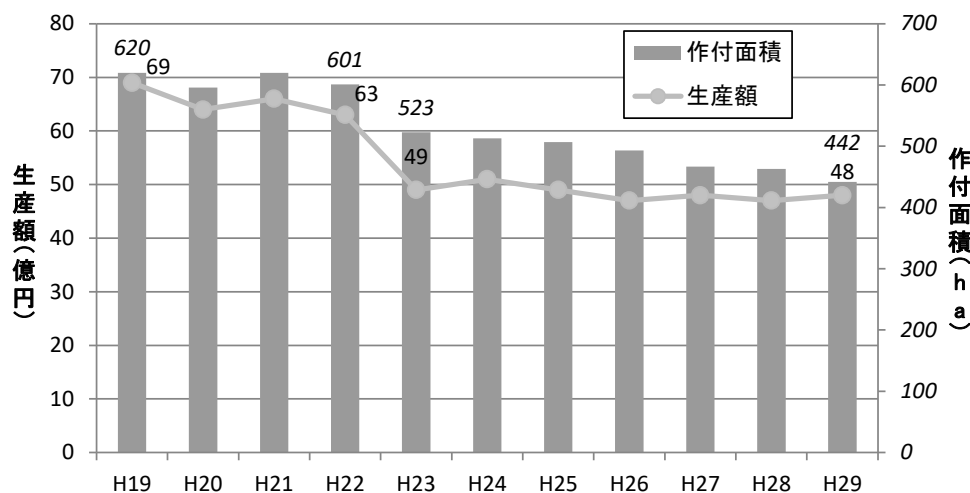


図2 本県の花き生産額及び作付面積の推移(県園芸課調べ)

### イ 本県の品目別作付面積及び出荷量について

本県の平成 29 年産における作付面積は、切り花類が 393ha（対前年産比 95%）、鉢物類が 26ha（同 93%）、花壇用苗もの類が 7ha（同 88%）となっています。

また、出荷量は、切り花類が 5,263 万本（同 101%）、鉢物類が 261 万鉢（同 106%）、

花壇用苗もの類が 297 万本（同 91%）となっています。

切り花類の主要品目は、きく、宿根かすみそう、りんどう、トルコギキョウ、枝物類であり、さらに、地域の特色ある品目として、カラー、ダリア、新鉄砲ユリ等が栽培されています。

表 2 本県の品目別作付面積及び出荷量（平成 29 年）

		作付面積 (ha)	出荷量 (万本)	対前年産比	
				作付面積 (%)	出荷量 (%)
切り花類	きく	87	2,047	93	94
	宿根かすみそう	48	541	98	90
	りんどう	32	452	110	117
	トルコギキョウ	21	355	100	98
	枝物類	136	574	93	154
	その他	69	1,294	92	100
	切り花類 計	393	5,263	95	101
鉢物類		26	261	93	106
花壇用苗もの類		7	297	88	91

※鉢物類は万鉢

(県園芸課調べ)

#### ウ 花きの栽培農家数の推移について

本県の平成 29 年における花き栽培農家数は 1,142 戸となっており、東日本大震災後大きく落ち込み翌年にはやや回復しましたが、高齢化等による廃作の影響から減少傾向にあります。

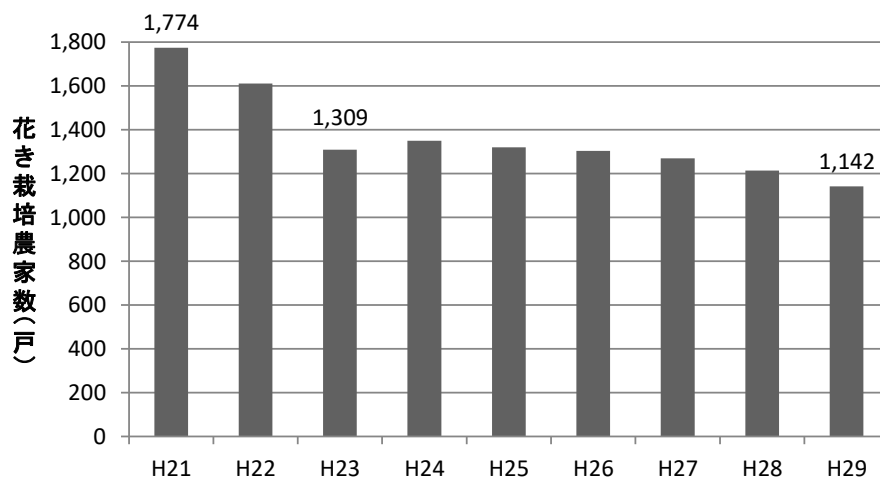


図3 本県の花き栽培農家数の推移(県園芸課調べ)

### (3) 生産の課題

- 東日本大震災により生産が減少し、回復していない産地があります。このため、

産地の復興・再生が急務となっています。

- 作付面積は、全国的に減少傾向にあり、本県でも高齢化による廃作等の影響により、減少しています。
- 生産拡大のために、新規栽培者の確保・育成と併せて、1戸当たりの経営規模の拡大が必要となっています。
- 近年の激しい気候変動に伴う開花期の変動により、安定的な生産ができず、労力集中や単価下落が起こっています。

## 2 花きの流通について

### (1) 市場流通について

農林水産省「卸売市場をめぐる情勢について」（平成30年7月）では、花きの市場経由率は77%となっており、青果物の58%と比べて高くなっていますが、直売やネット販売などの流通・販売方式の増加により市場経由率は減少傾向にあります。

また、県内4市場において、取扱数量は年々減少傾向にあり、取扱金額は郡山市場では増加傾向ですが、その他の市場では減少傾向にあります。平均単価は各市場ともに上昇傾向にあります。

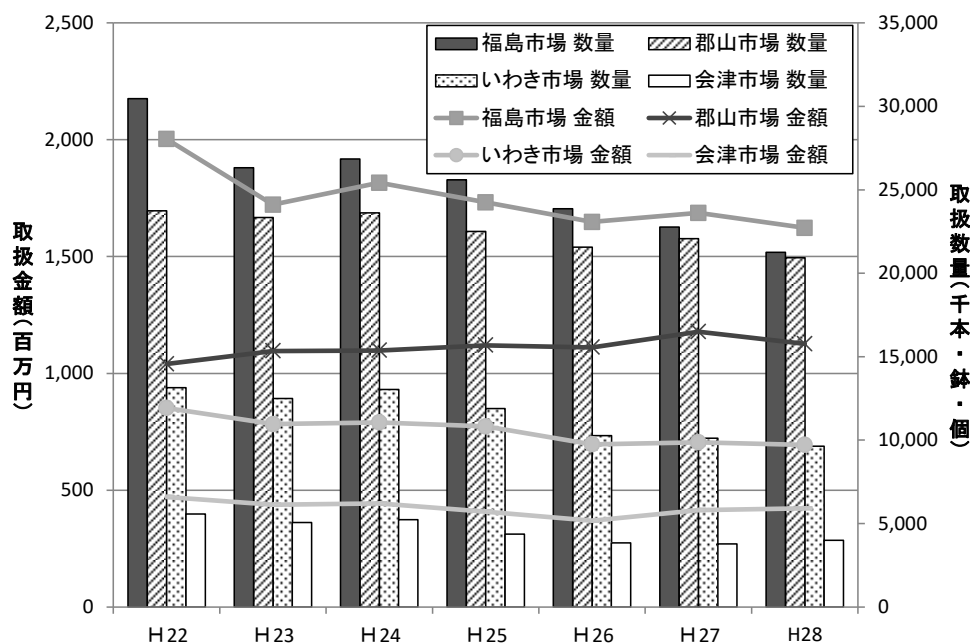


図4 県内主要市場別花き取扱数量及び販売額の推移

出典：各市場年報より

※取扱数量は切り花類、鉢物類、その他の合計値

表3 県内主要市場別花き平均単価の推移

単位（円／本・鉢・個）

市場 \ 年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
福島市場	66	65	68	68	69	74	76
郡山市場	44	47	47	50	52	53	54
いわき市場	65	63	61	65	68	70	72
会津市場	84	86	85	93	96	110	106

出典：各市場年報より

※平均単価＝販売金額／取扱数量

### (2) 切り花の輸入について

切り花の輸入量は平成25年まで増加傾向にありましたが、近年は微増で推移し



ています。数量ベースでの切り花輸入割合は、25%程度となっています。

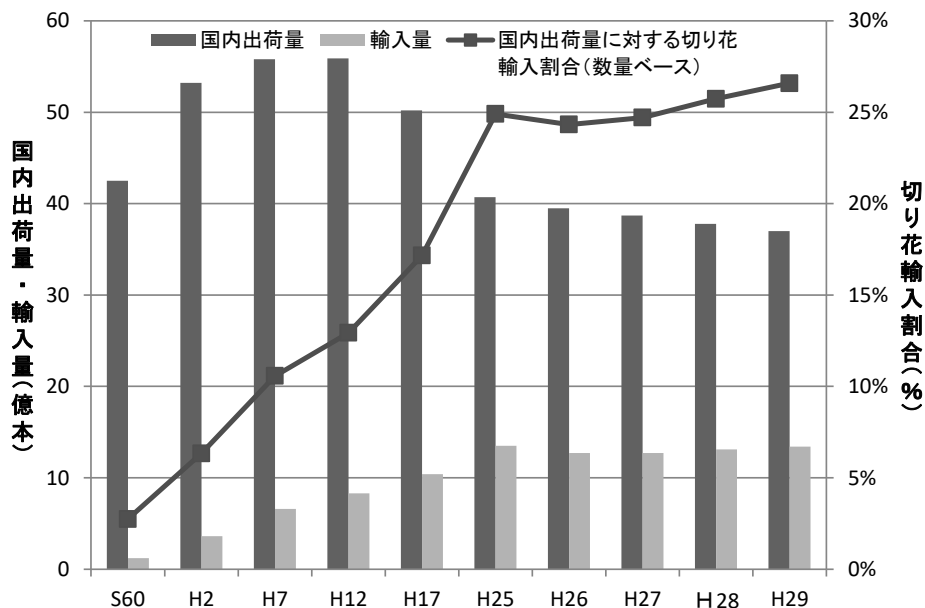


図5 全国の出荷量と輸入量の推移

出典：農林水産省「花き生産出荷統計」、「植物検疫統計」

### (3) 直売所流通について

農林水産省「6次産業化総合調査（平成28年度）」における農産物直売所での花き・花木の年間販売金額は、783億円となっており、直売所の販売総額1兆324億円の7.6%を占めています。

### (4) 流通の課題

- 今後も多様な流通・販売方式が増加することが予想されるため、市場や実需者、消費者のニーズに対応した規格による出荷が必要となっています。
- 県内市場では取扱数量は減少し、単価が上昇しているため、県内向けの生産量増加が不可欠となっています。
- 国産花きの品質等を生かして、輸入切り花との差別化が必要です。

### 3 花きの消費について

#### (1) 全国の切り花の支出金額について

全国の1世帯当たりの切り花の支出金額は平成23年度に落ち込み、平成26年度まで回復傾向にありましたが、再び減少しています。また、世代別にみると60歳以上の支出が多く、50歳未満は少なくなっています。

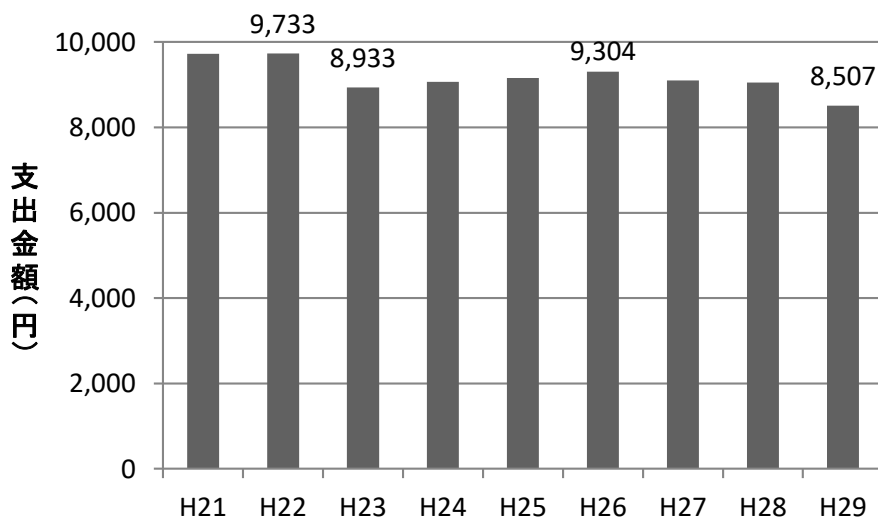


図6 全国の近年の一世帯当たりの切り花支出金額の推移(総世帯)

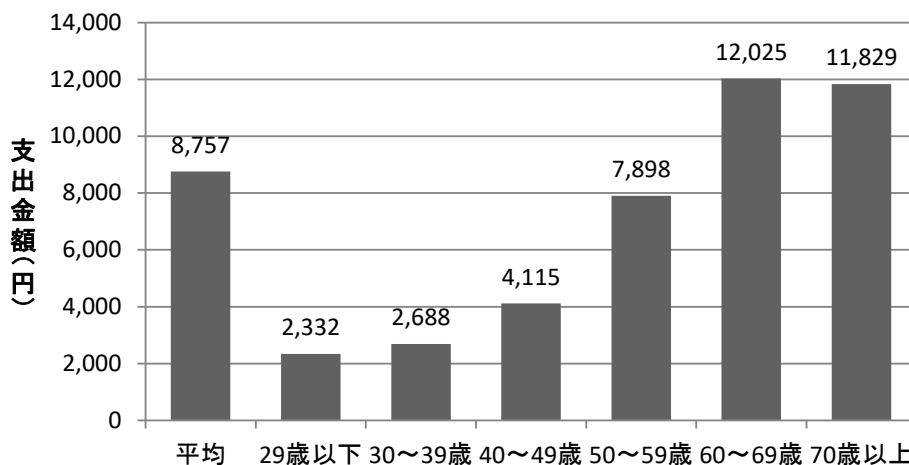


図7 全国の世帯主の年齢階級別一世帯当たりの切り花支出金額(二人以上の世帯、平成29年)

#### (2) 本県の切り花の支出金額について

本県では、福島市の切り花の支出金額は年次変動が大きいものの、全国と比較しても多くなっています。

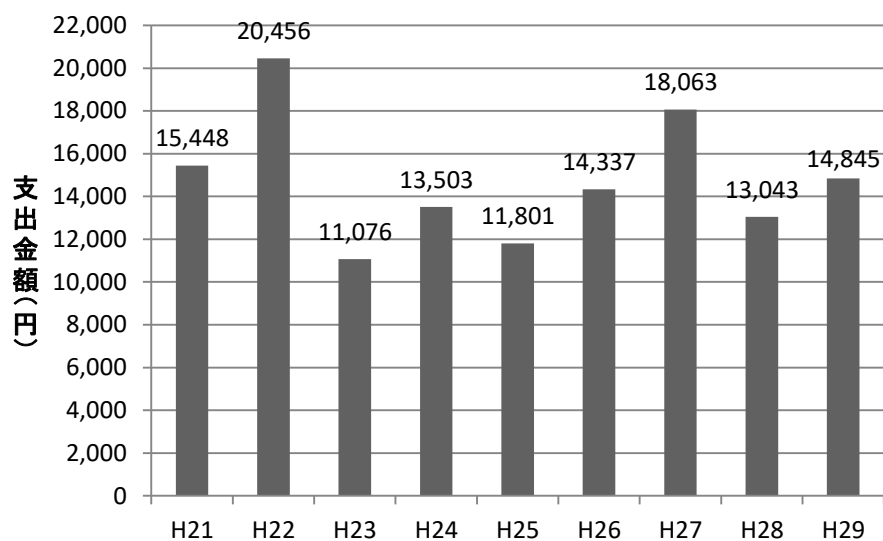


図8 福島市の近年の一世帯当たりの  
切り花支出金額の推移(二人以上の世帯)

出典：総務省「家計調査年報」

### (3) 消費の課題

- 花きの消費拡大に向けて、40歳代以下の方の購買意欲の向上が課題です。
- さらに、40歳代以下の方の子供が花に触れる機会も少なくなっています。
- これまでの盆、彼岸の大きな需要だけでなく、フラワーバレンタインなどの新たな需要創出が必要となっています。
- いけばな等の花きに関する伝統が継承されなくなってきました。

### Ⅲ 振興方針

～テーマ～【「百花繚乱」咲き誇れ ふくしま花物語】

#### 1 基本方針

##### (1) 基本目標

「花き産地の再生～浜通り等での新たな産地育成」

##### (2) 振興目標

花きを巡る情勢は、国内の作付面積、出荷数量の減少、さらには、需要の減少や輸入切り花の増加により厳しくなっています。また、県内では、東日本大震災と原子力災害の影響により、生産が大きく減少しました。

このため、関係者が一丸となり、生産体制の強化、流通・販売対策の強化、需要の拡大に取り組み、産地の再生、浜通り等での新たな産地育成を図り、本県の花き主要6品目（きく、宿根かすみそう、りんどう、トルコギキョウ、枝物類、鉢物類）を中心として振興を図ります。

品目	現状(H29)			→	目標(H37)		
	作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)		作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)
花き全体(球根類、芝類を含む)	442	58,730	48		550	73,500	64
うち、主要6品目	350	42,304	34		430	53,000	45

##### (2) 重点的な産地育成

###### ア 園芸産地復興計画策定産地

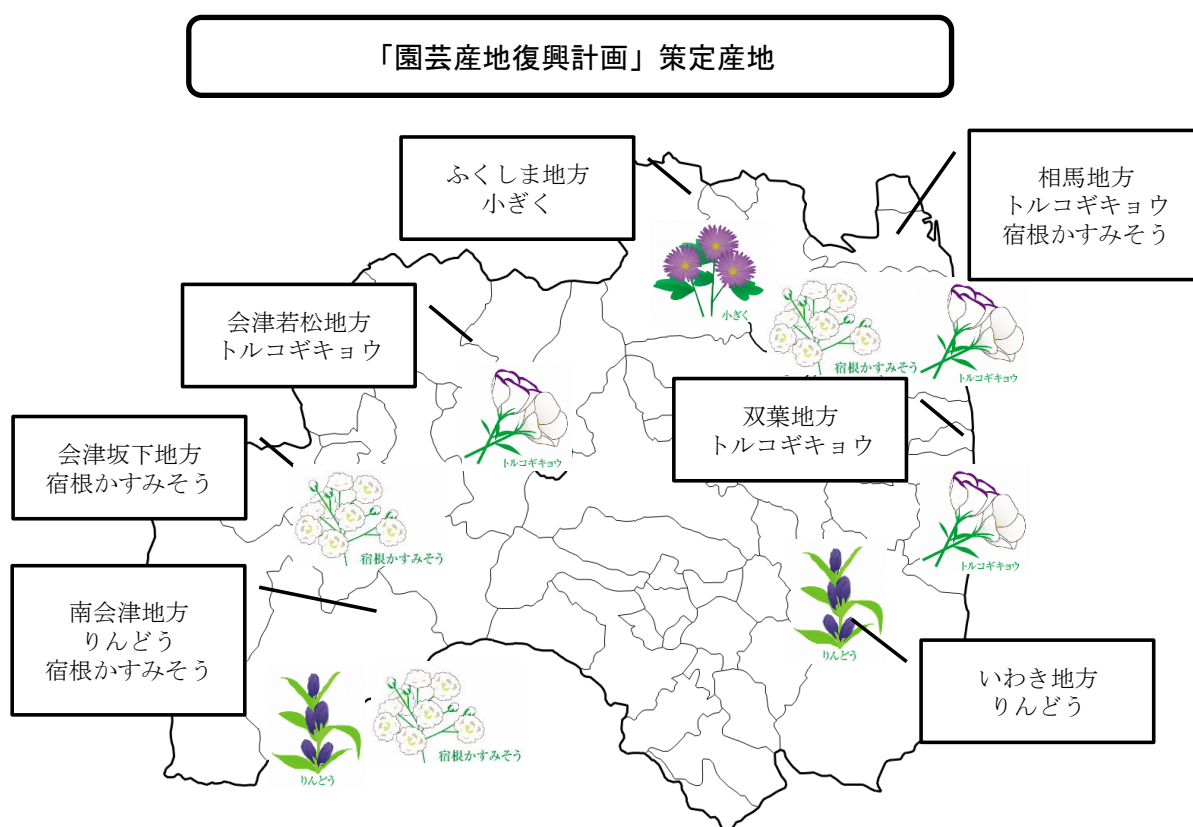
本県農業の力強い復興を成し遂げるために、平成25年3月に「ふくしま農林水産業新生プラン」に対応した「新未来園芸プロジェクト」を策定し、推進期間を前期4年（平成25年から平成28年）、後期4年（平成29年から平成32年）として園芸作物の生産振興を進めているところです。さらに、後期の基本目標を「園芸産地ふくしまの充実強化・産地創造」とし、「生産体制（人、ものづくり）の強化」、「安全・安心の確保と販売対策強化」、「新たな生産システム・技術の導入推進」の3つの視点を掲げるとともに、重点推進事項として、「きゅうり」、「もも」、「浜通り等の花き」の振興を図っています。

この中で、各農林事務所は新未来園芸プロジェクトに取り組む品目について、平成32年度を目標とする「園芸産地復興計画」を地域（産地）ごとに策定し、地方推進会議における計画の承認をもって強力に推進することとしています。花きでは、4品目（小ぎく、宿根かすみそう、りんどう、トルコギキョウ）7産地で策定されており、重点的な産地育成を進めています。

## イ 浜通り等の花き振興

本県の浜通り等においては、特に東日本大震災及び原子力災害の影響を受け、生産が大きく減少し、いまだ回復に至っておらず、花き産地の復興が急務となっています。そこで、平坦部の冬季温暖、山間部の夏季冷涼な気候条件を生かしつつ、避難地域の農業復興、新たな農業の展開をリードする品目として花きを積極的に導入していくため、平成 29 年 6 月に「浜通り等の花き振興プロジェクト」を策定し、既存産地の生産拡大を図るとともに、新たな花き産地の育成を進めることとしています。

このため、「福島イノベーション・コースト構想」の対象地域であるいわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村の計 15 市町村を対象とし、トルコギキョウ、小ぎく、宿根かすみそう、りんどうの栽培農家戸数、作付面積の増加を目標として、重点的な産地育成を進めています。



### (3) 生産体制の強化

#### ア 施設化、規模拡大の促進

生産拡大に向けて、大規模園芸施設の整備を支援するとともに、品目の複合化や作型の分化による労力分散を図り、規模拡大を促進します。

#### イ 需要期出荷技術の導入

近年の激しい気候変動に伴う開花期の変動や品質の低下が課題となっていることから、試験研究機関等と連携し、需要に応じた生産を進めるため計画生産・出荷が可能となる電照等による開花調節技術や高温対策技術の導入を促進します。

#### ウ 新たな生産システムの導入

高齢化等の労働力不足が課題となっていることから、定植機や選花機等の導入による省力化を推進し、さらには、かん水設備の導入や農業クラウド等のICTを活用した省力高品質生産のための新たな生産システムの導入等を進めます。

#### エ 新規栽培者の確保

花き栽培を希望する新規就農者や新たに花き部門の導入を検討している農業者等に対して、関係機関・団体と連携した技術支援を行うとともに、県農業総合センター農業短期大学校等で実施する研修や補助事業の活用を進めます。

#### オ 担い手の育成

既存栽培者に対しては、作付面積の拡大や新規品目の導入による経営規模の拡大に向けた支援を行いつつ、農地の集積や農業経営の法人化を進め、大規模経営体や農業法人等、各地方に応じたモデル経営体を育成します。

#### カ 水田フル活用の取組

水田経営の複合品目として、土地利用型作物の集約化により生み出された労働力を活用し、水田における花きの作付けを進めます。

### (4) 流通・販売対策の強化

#### ア 集出荷体制の整備

各産地での集出荷施設や低温設備の整備を進めるとともに、切り花の品質維持のためのコールドチェーン構築を進めます。また、輸送費の高騰が課題となっており、産地間連携による共同出荷等の効率的な集出荷体制の構築を目指します。さらに、多様なニーズに対応した規格、流通方式への実証、改良を行います。

#### イ 県産花きのブランド化

市場、実需者等との積極的な情報交換によりニーズを把握し、本県花きの特徴や日持ちに係る認証制度等を活用したブランド化を推進します。

#### ウ 輸出の促進

県内で新たな輸出の動きが見られる中、海外におけるニーズを把握し、ニーズに応えるための高品質で長期安定出荷ができる生産体制整備を進めます。さらに、国際的な博覧会や商談会へ出展し、本県の特徴的な品目・品種や高品質な花きを売り込み、輸出を促進します。

## (5) 県産花きのPRと消費拡大

### ア 各種品評会等の開催

関係機関・団体と連携した各種品評会やフラワーコンテストの開催により県内の消費者に対し、県産花きのPRを積極的に行います。

### イ 「花育※」等の推進

いけばなやフラワーアレンジメントによる「花育」の実施や、花いっぱいコンクールへの参加を促進し、公共施設等において花に触れる機会を提供します。

### ウ 県内外で開催されるイベントでの利用推進

平成32年開催の東京オリンピック・パラリンピック等でのビクトリーブーケや会場装飾への活用を推進します。

※子供達が花や緑に親しむイベント。やさしさや豊かさの醸成、将来の県産花きの需要拡大も期待するもの。

## 2 品目別の振興方策

### (1) きく

#### 「電照等の開花調節技術の導入による確実な需要期出荷」

##### ア 振興目標

品目	現状(H29)			→	目標(H37)		
	作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)		作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)
きく	87	20,468	7.9		110	25,000	11

##### イ 現状と課題

県内では、県北地方を中心に、いわき市、会津美里町、新地町などできくが栽培されており、中でも小ぎくの出荷量は全国第3位となっています。しかし、近年は高齢化等による廃作の影響から作付面積が減少しています。さらに、気候変動に伴う開花期変動により、8月盆や9月彼岸需要期の出荷量確保が課題となっています。

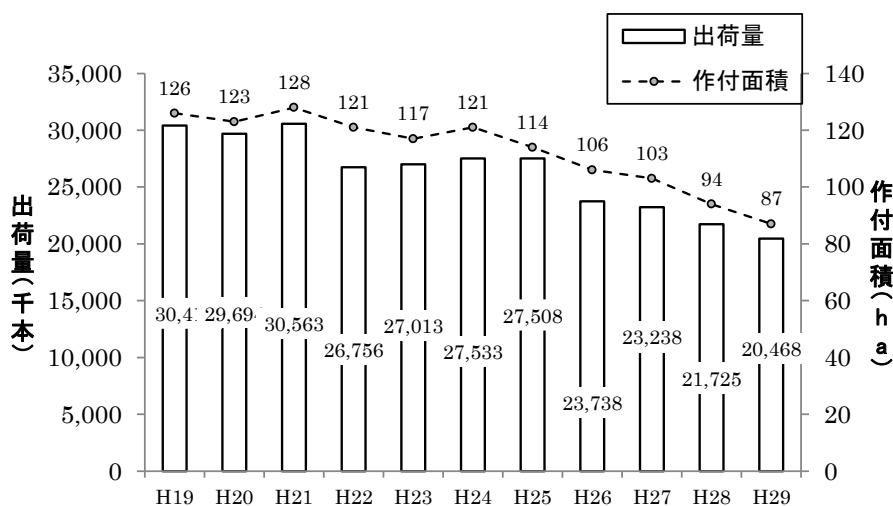


図9 きくの出荷量と作付面積の推移(県園芸課調べ)

##### ウ 振興方策

- 電照による開花調節技術の導入・拡大を図り、需要期の安定出荷を進めます。
- 定植機や選花機等の導入による作業体系の機械化や無側枝性品種の導入を推進し、省力化による規模拡大を図ります。
- 産地所有の品種に加え、新たな品種の選定試験を実施し、開花期や花色、スプレーフォーメーション等が有望な品種の導入を進めます。



## (2) 宿根かすみそう

### 「電照技術導入による出荷期拡大と高品質・安定供給体制の強化」

#### ア 振興目標

品目	現状(H29)			→	目標(H37)		
	作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)		作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)
宿根かすみそう	48	5,412	6.4		57	7,500	7.5

#### イ 現状と課題

会津坂下地方を中心に南会津町などで栽培が行われています。東京都中央卸売市場では夏秋期のシェアがトップとなっており、主産地の昭和村では、宿根かすみそうの新規就農者の受入体制を整備し、確実に栽培者を確保しています。また、業務用や染色したかすみそうなどの需要が拡大しています。しかし、高齢化の影響による作付面積の減少や夏季の高温期に収穫する作型の一斉開花に伴う切り残しが課題となっています。

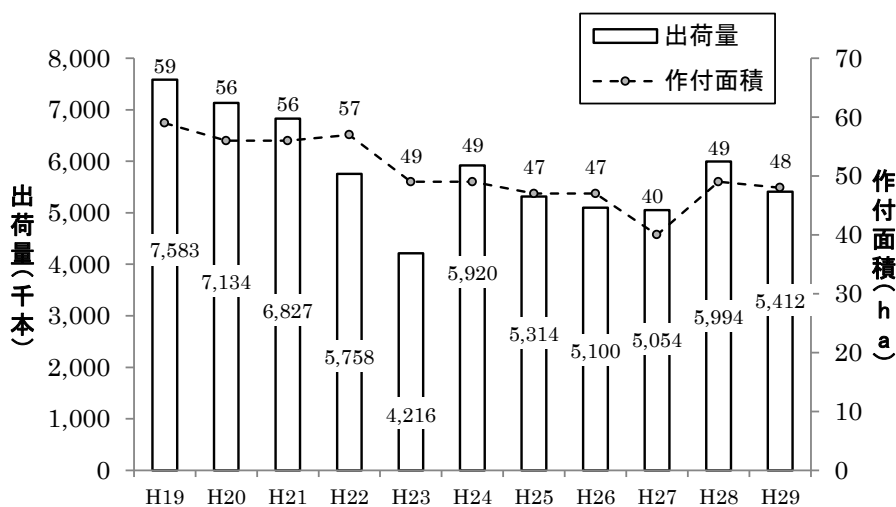


図 10 宿根かすみそうの出荷量と作付面積の推移(県園芸課調べ)

#### ウ 振興方策

- 主要品目の中では、比較的省力的で取り組みやすい品目として、新産地の育成と既存産地の栽培者確保を図ります。
- 需要に応じた品種や染色等の導入を推進するとともに、栽培方法の改良、電照技術の導入による作期の拡大を図り、出荷量増加につなげます。
- 高温対策として、遮光・遮熱資材やかん水装置の導入を推進し、品質と出荷量の安定化を図ります。

### (3) りんどう

#### 「計画的な株更新による収量・品質確保と品種リレーの再構築」

##### ア 振興目標

品目	現状(H29)			→	目標(H37)		
	作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)		作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)
りんどう	32	4,520	1.3		40	6,000	2.5

##### イ 現状と課題

震災前は南会津地方、県中地方、相双地方の中山間地域で産地が形成されていましたが、原子力災害により、相双地方では栽培が大幅に減少しました。震災後は作付面積、出荷量ともに横ばいで推移しています。ほとんどが露地栽培であり、近年の気候変動に伴う開花期の変動と株の老化による単収低下が課題となっています。また、全国的には、岩手県が主産地となっており、圧倒的なシェアを占めています。

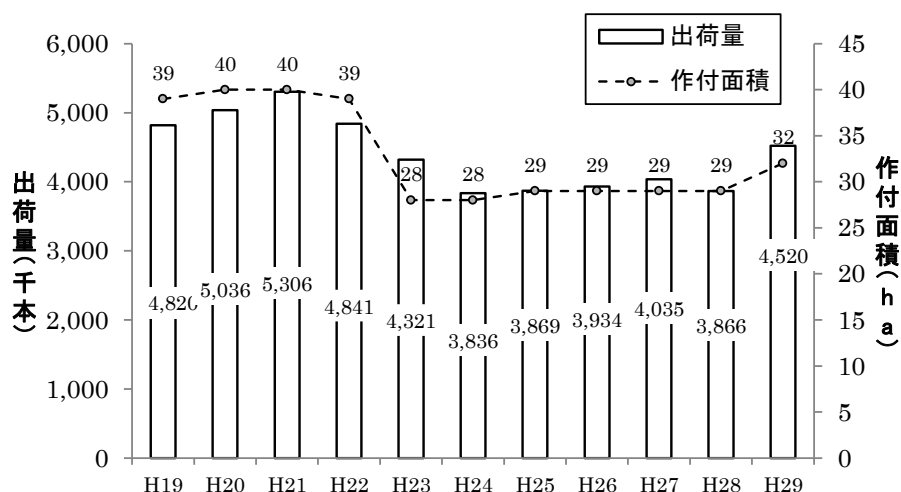


図 11 りんどうの出荷量と作付面積の推移 (県園芸課調べ)

##### ウ 振興方策

- 中山間地域を中心に水田転換作物として導入を推進します。
- 気候変動の影響を受けずに安定して供給するため、需要期前後の品種の作付けも推進します。
- 極早生～早生品種、晩生品種の導入に加え、被覆栽培等による作期の拡大と1戸あたりの作付面積拡大を図ります。
- 補助事業等の積極的な活用により、計画的な株更新を促進します。
- 県オリジナル育成品種だけでなく、県内民間育成品種 (かせんシリーズ、尾瀬シリーズ) を含めた福島県花きオリジナル普及品種を活用した特色ある産地を育成します。

#### (4) トルコギキョウ

##### 「環境制御技術の導入と的確に消費ニーズを捉えた産地形成」

###### ア 振興目標

品目	現状(H29)			→	目標(H37)		
	作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)		作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)
トルコギキョウ	21	3,553	4.8		30	6,000	9

###### イ 現状と課題

会津地方、県中地方、相双地方を中心に県内全域で栽培されています。しかし、原子力災害により主産地であった川俣町、飯館村での生産が停止し、栽培が大幅に減少しました。近年は、高温による開花の前進や短茎開花による品質の低下、主に土壤病害が原因となる連作障害が発生しています。また、種苗会社から多くの品種が育成されており、市場や実需者のニーズに応じた品種の導入と仕立て方が必要となっています。

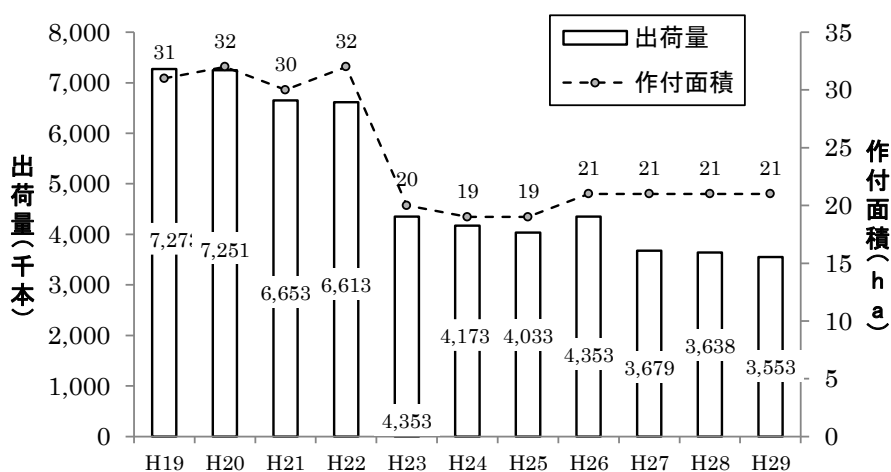


図 12 トルコギキョウの出荷量と作付面積の推移(県園芸課調べ)

###### ウ 振興方策

- 需要の高い品目として、産地の再生や新たな産地づくりを進めます。
- 高温対策として、遮光・遮熱資材や循環扇等の機器の導入を推進し、品質の向上を図ります。
- 連作障害対策として、土壤分析に基づく施肥設計支援と土壤消毒の徹底を図ります。
- ターゲットや気候条件に適した品種と出荷時期を選定し、ニーズに応じた技術支援を行います。

## (5) 枝物類

### 「多様なニーズに対応できる特色ある品目選定と産地の醸成」

#### ア 振興目標

品目	現状(H29)			→	目標(H37)		
	作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)		作付面積 (ha)	出荷数量 (千本)	生産額 (億円)
枝物類	136	5,738	2.5		160	5,500	3

#### イ 現状と課題

県北地方、県中地方を中心に、花モモ、ウメ、サクラ、ユキヤナギ等の特色ある品目が栽培されています。高齢化により、広域な園地の管理作業が課題となっており、管理放棄が増えています。全国的に枝物類の生産は減少しており、種類（ユキヤナギ、ユーカリ、ヒペリカム等）によっては市場からの要望が高い品目となっています。また、避難指示が解除された地域で作付実証の動きがあります。

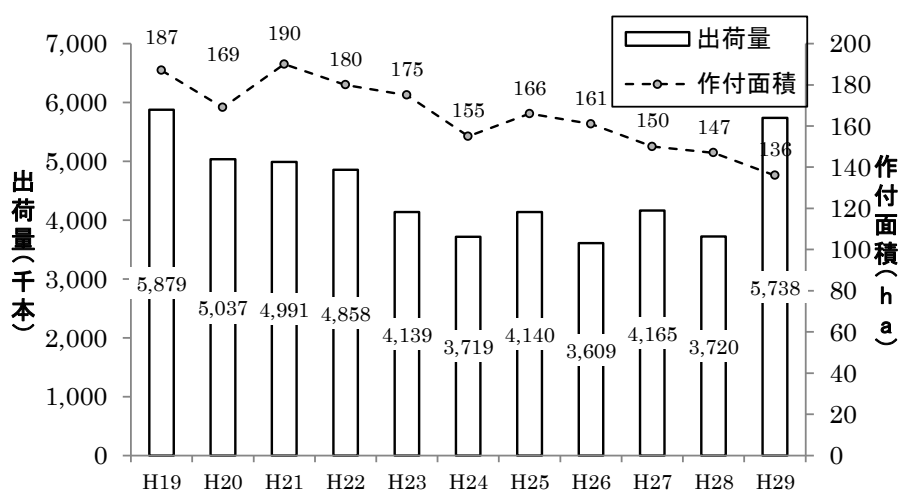


図13 枝物類の出荷量と作付面積の推移(県園芸課調べ)

#### ウ 振興方策

- 作業の共同化に取り組み、防除等の徹底を図ります。
- 生産拡大に向けて、J A全農福島の種苗センター等と連携を図り、種苗の供給を行います。
- 市場、実需者のニーズにあった品目導入、出荷時期や規格への対応等について、有利販売に向けた取組を支援します。
- 作付実証を通して、避難指示解除地域での導入を促進します。

(6) 鉢物類

「省エネ・低コスト生産技術の導入と県産ブランド力の向上」

ア 振興目標

品目	現状(H29)			➔	目標(H37)		
	作付面積 (ha)	出荷数量 (千鉢)	生産額 (億円)		作付面積 (ha)	出荷数量 (千鉢)	生産額 (億円)
鉢物類	26	2,613	11		33	3,000	12

イ 現状と課題

県南地方、相双地方、いわき地方を中心に高品質なシクラメン、ポインセチア、カーネーション等の栽培が行われています。震災前より作付面積、出荷量ともに減少していましたが、震災後は横ばいで推移しています。また、資材や燃油価格の高騰が経営を圧迫しています。さらに、後継者不足による施設や栽培技術の継承が課題となっています。

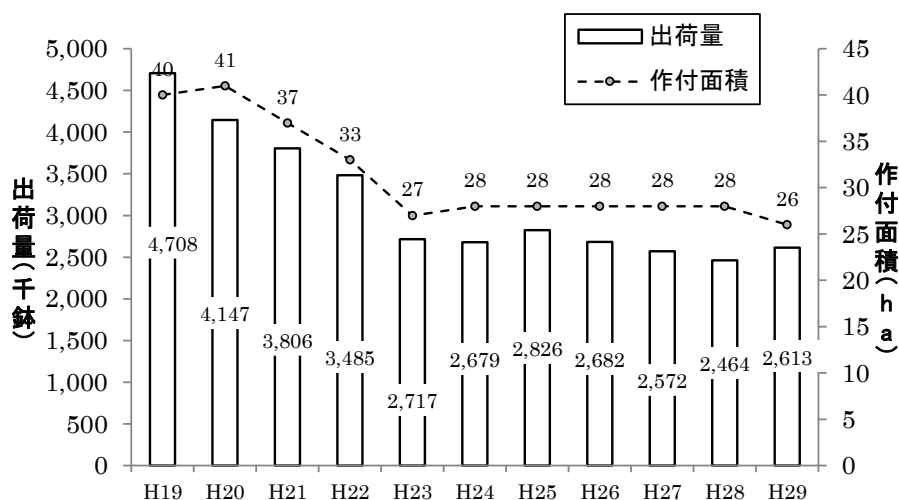


図 14 鉢物類の出荷量と作付面積の推移(県園芸課調べ)

ウ 振興方策

- 変温管理等の省エネルギー技術の確立と普及を図り、低コスト生産を推進します。
- 福島県鉢花生産者協議会等の生産者団体と連携し、後継者の育成を図るとともに、品評会等の開催を支援します。
- 栄養診断に基づく施肥管理を支援し、効率的な施肥によるコスト低減及び品質の向上を図ります。

## (7) 地域振興品目

### ア カラー

#### (ア) 現状と課題

猪苗代町、南会津町などで主に畑地性カラーが栽培されています。平成28年の東京都中央卸売市場において、本県のカラー出荷量は千葉県に次ぎ2位となっています。課題は難防除病害である軟腐病対策と導入時の種苗コストです。

#### (イ) 振興方策

- 県農業総合センターにおいて、軟腐病対策と球根の再利用における試験を実施し、得られた成果について普及を図ります。
- 県農業総合センターにおいて、需要に応じた県オリジナル品種を育成します。

### イ ダリア

#### (ア) 現状と課題

埴町と福島市などで栽培されています。各産地では産地オリジナルの品種も有しており、多くの品種が栽培されています。近年は大輪系の品種も増加しており、婚礼から葬儀まで需要の幅が広がっています。課題は気候条件に対応した安定供給とさらなる日持ち性向上となっています。

#### (イ) 振興方策

- 病虫害防除や施肥等の技術支援を行い、安定供給を図ります。
- 生産、流通段階での日持ち性向上について、県農業総合センターでの試験や現地実証を行うとともに、産地にその成果を導入します。

### ウ 新鉄砲ユリ

#### (ア) 現状と課題

須賀川市などで栽培されています。水稻やユキヤナギとの複合経営を行っており、産地オリジナルの品種も育成されています。課題は葉枯病等の防除対策と連作障害対策です。

#### (イ) 振興方策

- 品種構成の見直しや作型分化を図り、出荷時期の拡大を進めます。
- 防除対策として、施設化と土壌消毒を推進します。

エ 低温開花性花き（ストック、ラナンキュラス、カンパニュラ等）

（ア）現状と課題

夏秋期出荷品目（トルコギキョウ等）の後作として、主に冬春期に県全体で栽培されています。これまで栽培が多かったストックに加えて、会津地方ではラナンキュラスの作付けも増加しています。課題は冬春期を通じた安定供給に向けた生産の拡大です。

（イ）振興方策

- 主要品目との組み合わせによる複合経営を促進し、経営全体の安定化を図ります。
- 水稻育苗ハウスの有効利用を促進し、導入を推進します。
- 浜通り等の冬季温暖な気象を生かして、導入を推進します。

### 3 県オリジナル育成品種の振興方策

#### (1) 振興目標

品目	平成29年		→	平成37年	
	品種数	作付面積(ha)		品種数	作付面積(ha)
りんどう	6	3.79		9	7
カラー	0	-		3	1

#### (2) 現状と課題

##### ア りんどう

本県では、平成2年からりんどうの新品種開発を開始し、平成10年には「ふくしまかれん」の育成をはじめとして、現在まで6品種が育成されています。これまでの県オリジナル育成品種は、F<sub>1</sub>品種であるため生育が旺盛で形質の揃いが良いことが特徴となっています。

育成された品種は、福島県花き優良品種普及推進協議会において、県内民間育成品種とともに、「福島県花きオリジナル普及品種」に選定し、推進を図ることとしています。

課題は、紫色以外の品種が少ないことや、頂花が咲きにくい品種があるため、平成29年の県オリジナル育成品種の作付面積は3.79ha（JA全農福島種苗実績より換算）となっており、りんどう全体の15%程度に留まっています。

##### イ カラー

カラーの球根は、ほとんどがオランダ等から輸入しており、導入時の種苗費が高く、品種によっては軟腐病に弱いため、本県では平成18年から新品種開発を開始し、有望系統を作出しており、今後、品種登録を目指しています。

##### ウ 種苗供給体制

県育成品種の種苗は、県と許諾契約を締結した組織等のみが生産し、販売ができます。りんどうでは、JA全農福島が許諾を受け、採種、育苗を行い、県内に苗を供給しています。カラーは、組織培養による種苗の増殖が必要であるため、それに対応した種苗供給体制を構築する必要があります。

#### (3) 振興方策

- 生産者や市場、実需者、消費者等のニーズを踏まえて品種の育成と福島県花きオリジナル普及品種への選定を行います。
- りんどうは、8月盆、9月彼岸の需要期に出荷できる紫色の品種に加え、ピンクや白色、スプレー咲き等の新規性のある品種の育成を進めます。



- カラーは、鮮明な花色を有する良質多収性品種や球根の再利用が可能な品種の育成を進めます。
- 許諾先と連携して、安定的な種苗供給を行います。
- 本県の気象条件を生かして、広域での産地リレーを検討し、出荷体制の構築を進めます。
- 県オリジナル育成品種の特徴を生かして、新たな産地や新規栽培者へ推進を図るとともに、戦略的に販売・PRを行います。
- 県農業総合センターにおいて、福島県花きオリジナル普及品種に選定された民間育成品種の親株の維持・増殖を支援します。

## 福島県オリジナル育成品種



ふくしま凜夏



ふくしまさやか



ふくしまみやび



ふくしましおん



ふくしまほのか



ふくしまかれん

表4 福島県オリジナル育成品種の特徴

品種名	花色	開花時期	特性
ふくしま凜夏	濃青紫	7月上旬～7月中旬	生育が旺盛で、平坦部で7月盆需要期に出荷可能。
ふくしまさやか	青紫	7月中旬～8月上旬	生育が旺盛で、ハウス栽培での株持ちが良い。
ふくしまみやび	鮮青紫	7月下旬～8月上中旬	着花数が多く、ボリューム感がある。
ふくしましおん	鮮青紫	8月中旬～8月下旬	生育が旺盛で、草姿が良好で作業性も良い。
ふくしまほのか	濃青紫	9月上旬～9月中旬	花段数が多くボリューム感がある。
ふくしまかれん	鮮紫ピンク	9月下旬～10月上旬	生育が旺盛で咲き揃いが良好である。